



2026年度 医学部医学科・附属病院 新規採用教員のFD研修その1 (1/3)

愛媛大学医学部附属総合医学教育センター



1



医学教育分野別評価 (JACME) 2巡目の受審と評価結果

愛媛大学医学部附属総合医学教育センター

小林直人



2

「分野別評価」の受審結果の公表

愛媛大学医学部医学科における「医学教育分野別評価」
2巡目受審の結果と問題点、[愛媛医学](#)、45(2):87-94,
[June 2026](#)

医学教育分野別評価に基づく医学教育の質保証 (エディ
トリアル)、[愛媛医学](#)、39(3):107-109, 2020

「医学教育分野別評価」受審後の着眼点～受審を受けた
20大学の比較～、[愛媛医学](#)、39(3):118-122, 2020

分野別評価の指摘からみた本邦における医学教育体制の
課題～日本医学教育評価機構による2巡目評価結果の
分析～、[愛媛医学](#)、42(4):177-187, 2023

愛媛大学大学院医学系研究科/医学部
EHIHE UNIVERSITY GRADUATE SCHOOL OF MEDICINE/SCHOOL OF MEDICINE



3

「医学教育分野別評価」とは...

- ・日本の医学教育における質保証の制度
- ・日本医学教育評価機構(JACME)が行う
- ・世界医学教育連盟(WFME)グローバルスタンダード準拠の日本語版評価基準
- ・9領域、36の下位領域、約200の項目
- ・各大学の自己評価とJACMEの外部評価
- ・実地調査は4日間 (1巡目は5日間)
- ・認定期間は最長7年、2巡目が進行中
- ・大学の認定：2019年10月～2026年9月

ACCREDITED
2019.10-2026.9

愛媛大学大学院医学系研究科/医学部
EHIHE UNIVERSITY GRADUATE SCHOOL OF MEDICINE/SCHOOL OF MEDICINE



4



愛媛大学大学院医学系研究科/医学部
EHIHE UNIVERSITY GRADUATE SCHOOL OF MEDICINE/SCHOOL OF MEDICINE



5

「分野別評価」の2巡目への対応

- ・2024年4月、プロジェクトチーム立上げ
- ・2024年8月、年次報告書を作成して提出
- ・2025年8月、自己点検報告書(330p)提出
- ・ " 9月、事前質問事項への回答を提出
- ・ " 10月、当日のプレゼン資料等の準備
- ・ " 10月下旬、実地調査と口頭での講評 (2025/10/21～24)
- ・2026年1月、評価報告書(案:未確定) 確認
- ・2026年中 評価報告書の確定・公表予定

愛媛大学大学院医学系研究科/医学部
EHIHE UNIVERSITY GRADUATE SCHOOL OF MEDICINE/SCHOOL OF MEDICINE



6

「分野別評価」の2巡目の受審結果

☆優れた点

- ・多数の大学と合同した**多職種連携教育**を実践
- ・臨床実技をより効果的かつ安全に習得できるよう、**シミュレーション教育**を幅広く導入
- ・テニユア教員になるために長時間の能力開発プログラムの受講を義務化し、総合力の高い大学教員を育成

「分野別評価」の2巡目の受審結果

★改善を要する点（その1）

- ・行動科学のカリキュラムを体系化し、実践すべき
- ・主要な診療科における実習期間を十分に確保すべき
- ・さらなる水平的統合・重直的統合の推進が望まれる
- ・（全学年で）態度を含む評価を確実に実施すべき
- ・臨床実習において、workplace-based assessmentなどの様々な評価を有用性に合わせて活用すべき
- ・目標とする学修成果（学修目標）に整合した評価を用い、学修成果（目標）の達成を保证すべき
- ・臨床実習において時機を得た、具体的、建設的なフィードバックを行い、記録を残すことが望まれる

「分野別評価」の2巡目の受審結果

★改善を要する点（その2）

- ・全ての教員に対して更なる能力開発(FD)の機会を提供すべき
 - ・医学教育プログラム評価の体制を見直し、医学科カリキュラム評価委員会の役割を明確にし、活動をさらに充実すべき
 - ・教育プログラムの課題を特定し、課題への対応を検討し、カリキュラムに確実に反映させるべき
 - ・医学部の使命と学修成果（学修目標）に照合して、定期的に、執行部の評価を行うことが望まれる
- 他

医学教育分野別評価（JACME）2巡目の受審と評価結果

評価項目	「部分的不適合」と指摘された項目(1巡目)				「部分的不適合」と指摘されなかった項目(2巡目)			
	基本的大体	部分的に不適合	部分的に適合	完全適合	基本的大体	部分的に不適合	部分的に適合	完全適合
領域1	11	0	0	0	11	0	0	0
領域2	12	0	0	0	12	0	0	0
	13	0	0	0	13	0	0	0
	14	0	0	0	14	0	0	0
	15	0	0	0	15	0	0	0
	16	0	0	0	16	0	0	0
	17	0	0	0	17	0	0	0
領域3	18	0	0	0	18	0	0	0
	19	0	0	0	19	0	0	0
	20	0	0	0	20	0	0	0
	21	0	0	0	21	0	0	0
	22	0	0	0	22	0	0	0
	23	0	0	0	23	0	0	0
領域4	24	0	0	0	24	0	0	0
	25	0	0	0	25	0	0	0
	26	0	0	0	26	0	0	0
	27	0	0	0	27	0	0	0
	28	0	0	0	28	0	0	0
	29	0	0	0	29	0	0	0
領域5	30	0	0	0	30	0	0	0
	31	0	0	0	31	0	0	0
	32	0	0	0	32	0	0	0
	33	0	0	0	33	0	0	0
	34	0	0	0	34	0	0	0
	35	0	0	0	35	0	0	0
領域6	36	0	0	0	36	0	0	0
	37	0	0	0	37	0	0	0
	38	0	0	0	38	0	0	0
	39	0	0	0	39	0	0	0
	40	0	0	0	40	0	0	0
	41	0	0	0	41	0	0	0
領域7	42	0	0	0	42	0	0	0
	43	0	0	0	43	0	0	0
	44	0	0	0	44	0	0	0
	45	0	0	0	45	0	0	0
	46	0	0	0	46	0	0	0
	47	0	0	0	47	0	0	0
領域8	48	0	0	0	48	0	0	0
	49	0	0	0	49	0	0	0
	50	0	0	0	50	0	0	0
	51	0	0	0	51	0	0	0
	52	0	0	0	52	0	0	0
	53	0	0	0	53	0	0	0
領域9	54	0	0	0	54	0	0	0
	55	0	0	0	55	0	0	0
	56	0	0	0	56	0	0	0
	57	0	0	0	57	0	0	0
	58	0	0	0	58	0	0	0
	59	0	0	0	59	0	0	0
領域10	60	0	0	0	60	0	0	0
	61	0	0	0	61	0	0	0
	62	0	0	0	62	0	0	0
	63	0	0	0	63	0	0	0
	64	0	0	0	64	0	0	0
	65	0	0	0	65	0	0	0
合計	23	0	0	0	14	7	12	12

「分野別評価」の2巡目の受審結果

★改善を要する点（その1）

- ・行動科学のカリキュラムを体系化し、実践すべき
- ・主要な診療科における実習期間を十分に確保すべき
- ・さらなる水平的統合・重直的統合の推進が望まれる
- ・（全学年で）態度を含む**評価**を確実に実施すべき
- ・臨床実習において、workplace-based assessmentなどの様々な**評価**を有用性に合わせて活用すべき
- ・目標とする学修成果（学修目標）に整合した**評価**を用い、学修成果（目標）の達成を保证すべき
- ・臨床実習において時機を得た、具体的、建設的な**フィードバック**を行い、記録を残すことが望まれる

「分野別評価」の2巡目の受審結果

★改善を要する点（学生の評価）

- ・行動科学のカリキュラムを体系化し、実践すべき
- ・主要な診療科における実習期間を十分に確保すべき
- ・さらなる水平的統合・重直的統合の推進が望まれる
- ・（全学年で）態度を含む**評価**を確実に実施すべき
- ・臨床実習において、workplace-based assessmentなどの様々な**評価**を有用性に合わせて活用すべき
- ・目標とする学修成果（学修目標）に整合した**評価**を用い、学修成果（目標）の達成を保证すべき
- ・臨床実習において時機を得た、具体的、建設的な**フィードバック**を行い、記録を残すことが望まれる

用語の解説：目標に整合した評価

【目標とする学修成果】
= 学習の到達目標
ディプロマ・ポリシー

☆医学科DP（右）には
知識・理解
思考・判断
興味・関心・意欲
態度
技能・表現
が含まれる

＜学習の到達目標＞
【知識・理解】
1-1) 医師として必要な専門分野の学問内容の知識を修得している。
1-2) 卒業臨床研修に備えて、医療倫理や医療法制・医療経済、医療安全やEBM、医学における科学的学芸法などについての基礎的な知識を修得している。
1-3) 自然科学に多岐にわたる幅広い医療、マナーや一般常識を身につけている。
【思考・判断】
2-1) 分子レベルから集団レベルまでの生命現象を説明する適切な方法を指し、明らかに十分な結果を導き出して第三者に伝えることができる。
2-2) 患者と家族の身体的・心理的・社会的な健康状態および疾病の状態を把握し、情報を統合することによる適切な判断に基づいて、必要な行動を示すことができる。
【興味・関心・意欲】
3-1) 専門部から中山間地域や島嶼部までを含む地域に関心をもち、将来従事する医療の領域に関わらず医師として社会に貢献する意欲をもっている。
3-2) 少子高齢化、医療の国際化、健康障害の多様化など、様々な社会の医療ニーズの変化に対応して、適切な方法で最新の医学知識や医療情報を収集・整理し、生涯を通じて自ら学び向上する意欲を持つことができる。
【態度】
4-1) 豊かな人間性を涵養し、医師としての自覚と責任、適切な倫理観をもって、患者から学ぶ姿勢で行動することができる。
4-2) 医学の進歩のために基礎・臨床医学と臨床医学との両面での研究が不可欠であることを認識し、自らも研究マインドをもって医療を行うことができる。
【技能・表現】
5-1) 高レベルの医療行為を遂行にも自らにも安全に貢献することができる。
5-2) 患者・家族や後援・医療・福祉チームの多様なメンバーと良好なコミュニケーションを図る英語によるものを学びとり、チームの一員としての役割を主体的に果たすことができる。

用語の解説：目標に整合した評価

【目標とする学修成果に整合した評価とは？】

☆医学科DP（右）には以下の項目が含まれる：

- 知識・理解
- 思考・判断
- 興味・関心・意欲
- 態度
- 技能・表現

(参考：臨床研修指導医講習会)

用語の解説：目標に整合した評価

【目標とする学修成果に整合した評価】

☆医学科DP（右）には以下の項目が含まれる：

知識・理解 ⇒ 筆記試験、客観試験、等
思考・判断 ⇒ 口頭試問、レポート、等
興味・関心・意欲 ⇒ 自己評価・相互評価、等
態度（良い/悪い）⇒ 実習中の観察(記録)、等
技能・表現 ⇒ 実技試験・OSCE、等

※分野別評価ではシラバスへの記載や評価の記録が求められる

「分野別評価」の2巡目の受審結果

★改善を要する点（学生の評価）

- ・行動科学のカリキュラムを体系化し、実践すべき
- ・主要な診療科における実習期間を十分に確保すべき
- ・さらなる水平的統合・重直的統合の推進が望まれる
- ・（全学年で）態度を含む評価を確実に実施すべき
- ・臨床実習において、workplace-based assessmentなどの様々な評価を有用性に合わせて活用すべき
- ・目標とする学修成果（学修目標）に整合した評価を用い、学修成果（目標）の達成を保証すべき
- ・臨床実習において時機を得た、具体的、建設的なフィードバックを行い、記録を残すことが望まれる

「分野別評価」の2巡目の受審結果

★改善を要する点（臨床実習での評価）

- ・行動科学のカリキュラムを体系化し、実践すべき
- ・主要な診療科における実習期間を十分に確保すべき
- ・さらなる水平的統合・重直的統合の推進が望まれる
- ・（全学年で）態度を含む評価を確実に実施すべき
- ・臨床実習において、workplace-based assessmentなどの様々な評価を有用性に合わせて活用すべき
- ・目標とする学修成果（学修目標）に整合した評価を用い、学修成果（目標）の達成を保証すべき
- ・臨床実習において時機を得た、具体的、建設的なフィードバックを行い、記録を残すことが望まれる

用語の解説：形成的評価と総括的評価

【総括的評価】

- ・学生の成績、単位認定、進級判定、卒業判定

【形成的評価】

- ・学生への指導、フィードバックに用いられる
- ・評点をつける ≪ 適切にフィードバックする
- ・臨床実習で学生を指導する時、指導者は実習中に実習の現場で学生の学修レベルを評価しながらそのレベルにあった指導をすることが必要でありそれが形成的評価である。

(令和4年度改訂版 医学教育モデルコアカリキュラム p.203)

臨床実習での形成的評価（フィードバック）

【mini-CEX】

- ・ mini-Clinical Evaluation eXercise
 - ・ 簡易版臨床能力評価
 - ・ 学生が医療面接(病歴聴取)や身体診察を行う際に、指導医が直接観察して、下記に挙げた観点から学生のその臨床能力を評価し、**フィードバック**する。
- ①病歴聴取 ②身体診察 ③コミュニケーション能力 ④臨床判断 ⑤プロフェッショナリズム ⑥マネジメント ⑦総合

(令和4年度改訂版 医学教育モデルコアカリキュラム p.203)
(<http://jsme.umin.ac.jp/guide/la22/text/idx2.html>)

臨床実習での形成的評価（フィードバック）

【DOPS】

- ・ direct observation of procedural skills
 - ・ 臨床技能直接観察評価
 - ・ 学生が臨床手技を行う際に、指導医が直接観察して、下記に挙げた観点から学生のその臨床能力を評価し、**フィードバック**する。
- ①適応、解剖、手技の理解 ②インフォームド・コンセントの取得 ③事前の準備 ④技能 ⑤清潔操作 ⑥安全への配慮・援助の要請 ⑦手技後の管理 ⑧コミュニケーション ⑨プロフェッショナリズム ⑩総合(概略評価)

(令和4年度改訂版 医学教育モデルコアカリキュラム p.205)

「分野別評価」の2巡目の受審結果

★改善を要する点（臨床実習での評価）

- ・ 行動科学のカリキュラムを体系化し、実践すべき
- ・ 主要な診療科における実習期間を十分に確保すべき
- ・ さらなる水平的統合・重直的統合の推進が望まれる
- ・ (全学年で) 態度を含む評価を確実に実施すべき
- ・ 臨床実習において、workplace-based assessment などの**様々な評価**を有用性に合わせて活用すべき
- ・ 目標とする学修成果(学修目標)に整合した評価を用い、学修成果(目標)の達成を保証すべき
- ・ 臨床実習において時機を得た、具体的、建設的な**フィードバック**を行い、記録を残すことが望まれる

「分野別評価」の2巡目の受審結果

★改善を要する点（その1）

- ・ 行動科学のカリキュラムを体系化し、実践すべき
- ・ 主要な診療科における実習期間を十分に確保すべき
- ・ さらなる水平的統合・重直的統合の推進が望まれる
- ・ (全学年で) 態度を含む評価を確実に実施すべき
- ・ 臨床実習において、workplace-based assessment などの様々な評価を有用性に合わせて活用すべき
- ・ 目標とする学修成果(学修目標)に整合した評価を用い、学修成果(目標)の達成を保証すべき
- ・ 臨床実習において時機を得た、具体的、建設的な**フィードバック**を行い、記録を残すことが望まれる

「分野別評価」の2巡目の受審結果

★改善を要する点（その2）

- ・ 全ての教員に対して更なる能力開発(FD)の機会を提供すべき
- ・ 医学教育プログラム評価の体制を見直し、医学科カリキュラム評価委員会の役割を明確にし、活動をさらに充実すべき
- ・ 教育プログラムの課題を特定し、課題への対応を検討し、カリキュラムに確実に反映させるべき
- ・ 医学部の使命と学修成果(学修目標)に照合して、定期的に、執行部の評価を行うことが望まれる

他

ご視聴ありがとうございました。



医学教育分野別評価(JACME) 2巡目の受審と評価結果

愛媛大学医学部附属総合医学教育センター
小林直人